

平成23年度自己評価及び学校関係者評価書

大津市立石山小学校

大項目	中項目	自己評価(エビデンスを含む)	アンケート集計値				学校関係者評価
			教師	保護者	児童	平均値	
教育目標	1 学校教育目標の具現化をしている。(5つの約束の徹底)	分かりやすい言葉で5つの約束を繰り返し徹底指導した成果があがってきている。今後も継続して指導する。	3.23	3.21	3.26	3.23	<ul style="list-style-type: none"> 5つの約束は子どもたちに定着している。 学校は努力できている。 子どもの表情が明るく、挨拶もよく出来ている。
	2 児童が楽しく学校生活を送っている。	教師の努力指数は向上、児童はおおむね楽しく過ごしている。	3.35	3.33	3.32	3.33	
学習指導	3 教材研究を充分行い、わかりやすく、楽しい授業を行っている。	教師の授業への準備が充実した結果、保護者、児童の評価は良好である。	3.12	3.26	3.21	3.20	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任制は評価できる。 キャリア教育は将来の目標が育つ指導をしてもらいたい。
	4 児童個々の学力の課題を把握し、基礎基本が定着している。	基礎的基本的な内容を繰り返し指導し、家庭学習においても、読み書き計算の繰り返し学習を徹底する。	3.12	3.19		3.16	
	5 学習の遅れがちな児童など個々の学習状況に合わせた指導を行っている。	教師の努力に比例して、児童のアンケートの結果はおおむね良好であるが、保護者の要望は大きい。継続的な指導が必要。	3.12	3.03	3.54	3.23	
	6 複数の教員の指導(教科担任)で、よりわかりやすく楽しい授業が行われている。(5,6年生)	児童、保護者ともに評価はおおむね高い。内容を充実し、より効果的な取組を推進する。	3.04	3.24	3.35	3.21	
生徒指導・豊かな心の育成	7 あいさつすることや、掃除などの働く意欲を育てる指導を継続的に行っている。	あいさつの状況は学校と家庭で大きな違いが見られる。望ましい勤労観・職業観を育て、中学校につながるために、掃除の時間や当番、係りの指導を改善し、働くことに喜びを感じる心情を育てる。	3.35	2.95	3.26	3.19	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導を担当だけでなく、組織的に行っていることを強く感じた。 生徒指導など、正確で素早く取り組む方向に向いている。 地域の関連機関と協力して継続的に指導している。 学校のために働くことが押しつけでなく、奉仕の精神につながる指導を望む。
	8 人権について正しい理解を持たせ、生活の中で人権を尊重する実践的態度を育てている。	教師の意識、児童の評価は高いが、数値ほど児童の人権意識が高いとは感じにくい。保護者の要望は高く、いじめのない学校作りに向けて、心の教育のさらなる充実を進める必要がある。	3.35	3.02	3.61	3.33	
	9 学校のルール違反・社会的なルール違反に対しては、どの子に対しても毅然とした指導ができている。	教師の努力指数は高いが、教室で学習に集中できない児童もいて、指導が入りにくい状況にある。全校職員で共通理解し、場面に応じた毅然とした指導は、なお一層継続して行う必要がある。	3.46	3.14	3.64	3.41	
	10 全教育活動を通じて、思いやりの気持ちや社会のルールを守る気持ちを育てている。	教師は特に生活指導、道徳教育等を通じて規範意識の醸成に努力している。学校生活において、児童相互が高めあう人間関係作りを行う場を充実させる。	3.50	3.12	3.09	3.24	
児童理解	11 児童理解に努め、どの子に対しても公正に対応している。	教員の努力、児童の意識は良好であるが、保護者の見方とやや異なっている。公平、公正な指導を全教員が心がけ、複数の教師の関わりの中で、児童理解を深めることが求められる。	3.38	3.02	3.46	3.29	<ul style="list-style-type: none"> 学校は良く努力している。 学級、学年懇談会は一般的な話になり、相談しにくいので、個別懇談会が各学期末にあればよいと思う。
	12 子どもとの関わりを意識的に高め、子どもが気軽に相談できている。	本年度も児童一人ひとりと面談する教育相談を実施している。日常的に何でも相談できる児童との関係の構築に努める。	3.31	3.07	3.29	3.22	
	13 保護者との関わりを持ち、保護者が気軽に相談できている。	教師の努力指数は向上し、家庭訪問、保護者懇談等機会は設けているが、懇談会への参加率が低く、保護者アンケートの評価は昨年と同等でやや低い傾向にある。呼びかけ等広報を広く行っていくとともに、家庭訪問や個別に相談できる機会をさらに設けることが必要。	3.08	3.00		3.04	
健康・安全	14 安全点検を行い、日常の学習活動において、子どもが安心して学習できる環境作りができている。	保護者の安全への意識が高まり、学校への要望も高くなっている。建物管理、安全管理のさらなる向上が必要。	3.27	3.14	3.56	3.32	<ul style="list-style-type: none"> 保幼小中連携で不審者情報を流すことができていてよかった。 保幼小中連携では中学校1年生を無駄に過ごさないためにも連携で準備できることはよいが、進学に際して、成長のために適度な困難も必要である。 校種間連携は教師にとっての連携も価値がある。
	15 学年通信や保健便りを利用して、健康安全について指導ができている。	本年度も保護者、児童には指導がおおむね理解されている。教師の意識もやや向上。継続的な保健担当からの働きかけが必要	3.23	3.33	3.56	3.37	
	16 登下校や放課後の生活における交通事故、不審者等について日常的に繰り返し指導し、地域と連携できている。	教師、児童の意識は向上しているが、震災等への対応など保護者の安全・安心への要望は高く、保護者と連携した安全・安心な学校生活や登下校の安全確保が必要。	3.35	3.18	3.56	3.36	
PTA	17 PTA会員として、できる限り PTA活動に参加できている。	教師の意識はやや向上している。居住地域等での活動と重なる部分もあり、勤務校の活動に十分協力できていないという思いがあると推測できる。前向きな気持ちが必要。	2.81	3.21		3.01	おおむね良好(特記事項無し)
信頼される学校研究	18 学校行事や授業参観などの機会を設け、「開かれた学校づくり」を行っている。	昨年同様に道徳の授業の公開、学校公開日の設定、運動会、音楽会等の学校行事の積極的な公開が評価されている。	3.23	3.34		3.29	おおむね良好(特記事項無し)
	19 学校便り、学年通信等で、教育活動について保護者に情報を提供している。	学校、学年、学級通信の取り組みが理解されている。ITを活用して学校の取組や様子を広く知らせるため、ホームページを充実させる。	3.23	3.44	3.62	3.43	
学校研究・自己研鑽	20 指導力向上のために校内研究会等を積極的にやっている。	国語科の研究を中心に、共同的な学びを充実させる手立てを行った。各学年年間一回以上の研究授業、研究会を実施した。研究授業の実施はおおむね良好で、授業改善へつながっている。	3.15			3.15	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に見れば学力向上に努めてもらいたい。 同時に自主性を育てる取組を工夫して続けてほしい。
	21 夏休休暇等を活用して研修会へ参加する等、研鑽に努めている。	自主研修にも積極的に参加し指導力を高めることが必要。自習研修の機会が減っていることも課題	2.23			2.23	

※総合評価 4・・・十分満足できる状況 3・・・おおむね満足できる状況 2・・・やや努力を要する状況 1・・・努力を要する状況

※アンケート集計値は1～4の平均値

平成24年度重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 複数の教員の指導で子どものよさや可能性を見取り児童理解を深めるとともに、一人ひとりの特性や課題に応じた教育を行うために、5年生、6年生の一部の教科で教科(学年)担任制を実施する。 望ましい勤労観を育み、中学校での望ましい職業観の育成につながるため、6年間を通じて、清掃活動等の当番活動など学級や全校のために働く活動を充実させる。
------------	---